

第二回館山市議會定例会會議錄（第五号）

一、昭和五十六年六月三十日（火曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

| | |
|------------|------------|
| 一番 神田 守隆 | 二番 石井 謙 |
| 四番 横溝 功 | 五番 福原 勤 |
| 七番 古賀 礼四郎 | 八番 石井 昌治 |
| 九番 松下 正己 | 一番 林 豊 |
| 一二番 栗原 一雄 | 一三番 近藤 好雄 |
| 一四番 渡辺 昭夫 | 一五番 伊藤 幸太郎 |
| 一六番 押元 稔 | 一七番 黒川 平治 |
| 一八番 流山 源次郎 | 一九番 石井 輝久 |
| 二〇番 石井 武敏 | 二二番 藤田 益治 |
| 二三番 菊井 敏博 | 二四番 和田 一郎 |
| 二五番 五十嵐 昇 | 二六番 伊賀 多朗 |
| 二七番 石井 正 | 二八番 安澤 徳順 |
| 二九番 安西 益男 | 三〇番 山口 康 |

一、欠席議員 一名

二一番 吉田 勇治郎

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和五十六年六月三十日午前十時開議

議案第三十七号 館山市国民健康保険税条例の一部を

日程第一

議案第四十号

改正する条例の制定について
昭和五十六年度館山市一般会計補正
予算（第三号）

議案第三十八号

館山市越地原一号線林道舗装事業分
担金徴収条例の制定について

日程第二

議案第三十九号

館山市都市計画審議会条例の一部を
改正する条例の制定について

議案第四十一号

昭和五十六年度館山市水道事業特別
会計補正予算（第一号）

日程第三

請願第一号

請願書
工事請負契約の締結について

日程第四

議案第四十二号

専決処分事項の指定について

日程第五

議案第三号

館山市議会委員会条例の一部を改正
する条例の制定について

日程第六

請願第二号

館山駅東西歩道橋早期建設に関する
請願書

日程第七

請願第二号

館山駅東西歩道橋早期建設に関する
請願書

開

議 午時十時三分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十五名、これより第二回

市議会定例会第五日目の会議を開会し、直ちに本日の会議を開き

ます。

本日の議事は、お手もとに配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第三十七号及び議案第四十号

の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る六月二十三日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る六月二十三日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第三十七号及び議案第四十号につきましては、六月二十四日委員会を開催し、各案件について慎重審議の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

議案第四十号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第三号）についての主なる質疑応答は次のとおりです。

現在、正木処理場の余熱を温水プール、老人福祉センターで利用してあるが、移転後においては余熱利用ということができなくなるが、どう対処していくかを尋ねたところ、そのままだイライラによって運営していきたい。しかし燃料経費については十分検討してみたいとの考えが示されました。

また、跡地の利用について伺いましたところ、新たに新設される処理場については公害対策に万全を期し、施設の維持という観

点から、焼却と収集の組織を別にすることを考えており、収集にかかわる事務所をどこに置くかということも含めて検討中であるとの答弁がありました。

なお、議案三十七号審査の際、救急車をタクシーがわりにするようなことを聞くので、慎重なる配慮を要望いたしました。

以上、本委員会に付託されました議案二件について、総務委員会における審査の概要を御報告いたしました。満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。総務委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。

○一番（神田守隆君） いまのお話の中で、焼却の問題で、焼却場の中で焼却と収集を別組織にするという説明があったということを知りましたけれども、これについてさらに突っ込んだ審議がされたのかどうか、この点についてお伺いしたいと思います。その審議の内容があるとすれば、もう少し審議の経過を具体的に御説明願います。

○総務委員会委員長（横溝 功君） ただいま御報告申し上げましたとおり、跡地の利用につきましてどのようにするのかと当局に聞きましたところ、焼却と収集の組織を別にする、これは公害対策上必要なことだということでございました。事務所のことも検討しなければならないので、跡地については目下検討中である

と、こういふようなことでございました。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 私は、議案の第三十七号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

昭和五十五年度の国民健康保険会計の差し引き残金は一億一千四百万円ですが、これを保険税の軽減の原資とすれば、値上げ幅は約五割程度に押えられると、当局の答弁のとおりであります。四千万円を基金に繰り入れるため一割もの保険税の大幅な引き上げを認めざるを得ないような何の合理性もありません。医療費の改定分はわずか三割程度であり、この大幅な値上げは結局基金への繰り入れによるところが大きいのであります。私は国保税が市民にとって大変に大きな負担になっている現在、国保会計の剰余金は全額税の軽減に振り向けるべきであると考えます。

さらに、本来加入者が負担する理由のない事務費超過負担分について、国にその解消を強く働きかけるとともに当面、一般会計

からの繰り入れをして税の軽減に努力すべきことを主張し、反対討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、一番議員君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第三十七号について起立により採決いたします。

議案第三十七号についての委員長の報告は原案可決であります。

議案第三十七号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第三十七号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第四十号について採決いたします。

議案第四十号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第四十号を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

よって、議案第四十号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第三十八号、議案第三十九号及び議案第四十一号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る六月二十三日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謀君御登壇願います。

（建設経済委員会委員長石井 謀君登壇）

○建設経済委員会委員長（石井 謀君） 去る六月二十三日開会の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました一般議案二件、補正予算一件につきまして、六月二十四日建設経済委員会を招集し、各議案の審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきまして、それぞれ全員原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主な事項を申し上げます。

議案第四十一号昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算第一号についてでありますが、ごみ処理場建設用地の選定につ

いて関係地区住民の同意条件を充足するための工事費及び加入者分担金等を市が負担しようとするものでありますが、今後給水装置事業費及び加入者分担金を市で負担することがあるかどうかの質問したところ、今回は協定を結んだ時点の戸数が対象で、今後についてはそういう扱いをしないということで了解に達しているからとの答弁がありました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について本委員会の審査の概要を御報告申し上げます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、建設経済委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は一括して行います。

議案第三十八号、議案第三十九号及び議案第四十一号について委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第三十八号、議案第三十九号及び議案第四十一号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、請願第一号請願書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました請願書は、去る六月二十三日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る六月二十三日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました請願書の審査の経過及び結果につき御報告申し上げます。

請願第一号につきましては審査の結果、願意を妥当と認め採択すべきものと決しました。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、総務委員会委員長の報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採

決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

請願第一号についての委員長の報告は採択であります。

請願第一号を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、請願第一号は採択すべきものと決しました。

日程の追加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま採択と決定されました請願第一号に付帯して、発議案第一号郵便貯金金利決定方式の存続に関する意見書案が提出されました。

この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 発議案第一号郵便貯金金利決定方式の存続に関する意見書を議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読をお願いします。

（議案朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 発議案第一号郵便貯金金利決定方式の存続に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案は先ほど採択されました請願書に関連いたしまして提出いたしましたのでございます。

御承知のとおり、郵便貯金の金利につきましては、郵政審議会の答申を受けて決定され、民間金融機関の金利決定とは異なる扱いとなっておりますが、今年一月設置されました金融の分野における官業のあり方に関する懇談会等で郵便貯金制度につき種々検

討されております中で、金利の一元化の動きが伝えられております。

これが実施されますと、国民一般の貯金意欲を減退させるばかりでなく、金利決定にあたって預金者の声が反映されなくなるおそれもあります。

以上、申し述べましたことから、この際、現行の郵便貯金金利決定方式の存続を関係機関に要望いたしたく、お手もとに配付いたしましたとおり七名の賛成者を得まして本案を提出した次第でございます。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑をお願いします。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することとに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（林 豊君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、議案第四十二号工事請負契約の締結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（議案朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第四十二号工事請負契約の締結について提案理由の説明を申し上げます。

館山市立博物館分館建設工事にかかわる指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、一億七千七百五十万円をもって株式会社社青木建設東京支店と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものであります。

工事内容としては、既存の展望台を取り壊し展示室、事務室、玄関ホール等を備えた鉄筋コンクリートづくり三層内部四階建て延べ面積四百九十二・六平方メートルの天守閣型の博物館分館を建設しようとするもので、工期を翌年三月二十五日までとするものであります。

同館は、里見氏に関する資料を中心として展示するとともに、建造物自体を歴史的な資料として活用し、本市の歴史や文化に触れることのできる施設としてまいりたいと考えております。よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

以上、提案理由を終わります。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

質疑応答

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○二〇番（石井武敏君） 議案の四十二号でございますが、この工事請負契約の締結、この工事の内容は非常に重要な意味を持ってまいりますので、御質問したいと思いますが、この事業は、御承知のように市民も非常に期待をしている事業でございます。非常に完成するのを心待ちにしているという事業でございますし、市の側からしましても、市民の期待にこたえて市民の意見を広く集めて、総意を集めてつくっていくたいという方向が、そういう意欲が前からうかがわれるものでございまして、この種の建造物が非常に当市におきましても少ないわけでございます。

いわゆる、この館山市立博物館分館が、御説明にありましたように、里見氏の資料を展示したり、歴史的な事実をたどった建造物をつくる。そういうような社会教育的な意味もありますし、また観光的な意味も含まれます。こういうように非常に重要な希少価値と言われるような建造物であると私は思うわけでございます。なお、この大事な事柄でありますので、ただいまの御説明に關しましてもう少し明らかにしておいていただきたいという点が何点

かでございます。

まず第一点は、今回の落札で工事ができる部分の範囲を、たとえば内装、外装、これはもちろん締結をしまして県の補助等あると思いますけれども、今回のこの工事の締結によって内装、外装全部これでできてしまうのかどうか、御説明をお願いしたいと思います。

それから、非常に特殊な設計でございますので、いわゆる時代的な考証は藤原先生ですか、がやっておられるというように私は聞いておりますが、その設計をする人と設計をする会社ですね。設計はだれがするのか、時代考証をする方、この時代考証をされたものがそのまま設計になっていなければならないわけでございます。そのへんの関係を明らかにしていただきたいと思ひます。

今回の、この建設をします青木建設でございますけれども、非常に市の大事な工事を請け負わせるわけでございますので、この青木建設はどういうような会社なのか、もう少し明らかにしていただきたいと思ひます。たとえば資本金であるとか、実績としてはたしか京都の伏見城ですかを建設をしたというように承っておりますが、もう少し青木建設につきまして明らかにしていただきたいと思ひます。資本金とか。

以上でございます。

○教育長（安田豊作君） お答えいたします。

第一点は、今回の入札といひますか、依頼によって全部できるのかということですが、建物は全部内装、外装一切できます。

それから、設計については、時代考証は東京工業大学名誉教授の藤岡通夫、この設計にあたっては藤岡先生が顧問をしておりま

す構造建設設計事務所が設計いたしました。

○総務部長（石田雄一君） 質問の第三点でございます落札業者でございます青木建設の会社概要でございますが、本社は大阪にございまして、大阪市大淀区大淀南にあるわけでございます。代表取締役社長が青木宏悦、資本金の関係でございますけれども、五十八億八千二百八十六万二千元、それから職員の数でございますが、二千七百四十人おります、うち技術職員が千二百六十人完成工事高でございますけれども千二百六十億でございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきました、維ばく理解できましたけれども、時代考証の先生の名前は藤岡先生というところでございまして、私の方で間違えておりまして、ここに説明のあります三層四階建てというですね、これは非常に重要なことだと私は思ひます。というのは、一つは天守閣でありますし、いままでの展望台を取り壊してそこにつくるわけでございますので、その地理的なもの、環境的なところがそこに生かされてこなければならぬ。そういうふうに思ひますので、たとえば三層四階建て、たとえば四階建てといひますと、一階、二階、三階、四階と、こうあると思ひますが、これはたとえば一階からも、二階からも、三階からも、四階からも四方の景色が見える構造になっているでしゅうか、どうでしゅうか。そのへんを明らかにしていただきたいと思ひます。

というのは、やはり天守閣というのは、そもそも周りの形、時代考証の学術的な意味を持つ、周りから見ても価値のあるものです。それが最もあります。しかしこの場合は学術的な意味のもの、社会教育的の意味のもののほかに観光的な意味のものも私は要素と

して含まれると思うんですこの分館には。そこでお尋ねしているんです。ひとつその点を明らかにしていただきたいと思ひます。

それから、この工事におきましては、市内の業者が下請として部分的に請け負う部分が具体的にできてゐるでしようか。たとえば、こういう大事を事業でございまして、工事のあり方につきましても、当局としてはもう少しこういうことがあればやはり具体的に目を通したり、掌握をしたりする必要があるんじゃないかというふうに思ひますので、その点をひとつ明らかにしていただきたいと思ひます。

○教育長（安田豊作君） 一階、二階、三階、四階みんな周りの景色が見えるかというようにのですが、一階、二階は窓はありますが、展望としては四階が四方が展望ができるようになっております。それから三階については、実は三階になりますけれども、ここにいわゆる大屋根という屋根が周りにありますので、三階からは展望はできない。だから機械室にしよう。こういう計画になっております。それから一階、二階は展望室というよりも、ここには展示ケースを置いていろいろのものを展示したい。こういう計画を持っております。

○総務部長（石田雄一君） 二番目の質問でございます部分下請の関係でございますけれども、一応本議会で議決をいただきました以降におきまして、担当でございます博物館準備室と業者との間におきまして具体的な工事の進行上の打ち合わせがあるわけでございすけれども、一応契約の中に部分下請をしていくという段階では当然市長宛にいたします連絡がございすので、具体的にはその段階で煮詰まっていくなと考へます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきました。それでですね、たとえば三層四階建て、この御説明では、すなわち一階二階は窓があるから周りが見える。三階は屋根で全く周りが見えない。だから機械室にしたんだということなんですが、このへんの考え方でございますが、これは全く三階が周りに閉ざされてしまふような構造なんですか。

たとへば、こういう考え方があると思うんですね。やはり機械室と言へば相当な機械も入れると思うんですが、なんか三階に機械を置くというのは非常に展示上あるいは構造を、効率的に建築物を活用するという意味から非常にもったいないような。もっとほかの考え方が、たとえば地下に機械室をつくる、あとの一階から四階までを全部生かして活用するとかいうことが考えられなかったのかなというふうに直感するわけでございすますが、そのへんをもう少し明らかにしていただきたいと思ひます。

そういう検討がなされたかどうかということ。それから、こういった特殊な建築物でございすので、非常に工事が進んでいく技術的な監理というものの、これは非常に大事だと思ひます。工事の工程が進んでいく技術的な監理能力これは一

体どういふ時点でやっていくか、工事が技術的に進んでいく段階におきましてやはり確認をとっておかなければいけない。発注をしました、でき上りましたというだけでは、その中間がどのように進んでいくかということが非常に大事だと思ひますので、そのへんの監理能力についてどういふふうに考へておられるか、またどういふふうにされていくのかをもう少し明らかにしていただきたいと思ひます。

以上の点でございますけれども、ひとつ大事な事業であるし、非常に市民も期待をかけているし、市も意欲的に取り組んでいる工事でございますので、工事の万全を期して事故のないように、そして希望どおりのものができるように私も祈りますが、以上の点いまだ少し明らかにしていただきたいと思ひます。

○教育長（安田豊作君） 三階を機械室にしてもつたいないんではないかということでございますが、私もそういう考え方もちよっとしましたけれども、さっき市長から申し上げましたようにこの分館の型式は、型は天正期のモデル的な天守閣の型をとるということになりまして、藤岡先生の考証によりまして、一階、二階は同じ広さといひますか、同じ高さが積み重なっていく。三階にいわゆる大屋根という屋根が重なり合うというようになつておりました、四階は望楼といひ、いわゆる天正期の天守閣の型というのはそういう型になっているんだということで、それをそのまま忠実につくっていくということになると、三階のところからは見えない。したがって、見えないところだから機械室にすることが、要するに空気の流通といひますか、そういう機械を置くのに適当じゃないかという藤岡先生の設計の結果がそういうことになっております。

○総務部長（石田雄一君） 具体的に工事の段階ごとの監理の問題でございますけれども、本年度の当初予算に博物館分館の監理につきましても予算をいただいたわけでございますが、構造計画研究所が監理を執行するわけでございます。したがひまして、段階ごとにおきます監理というものは十分実施していくものと考えます。

○二〇番（石井武敏君） 質疑を終ります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。

○一番（神田守隆君） この天守閣の問題でありますけれども、時代的な考証ということで、藤岡先生の考証を得たということで、藤岡先生という方はお城の問題については大変な權威であるといふよりなお話も伺ひ、そう思ひますけれども、しかしながらこの天守閣の問題というのは、あくまでも一つの推計の上に成り立っていることで、このことはいなめないわけで、それだけに私はあつたのか、なかつたのかということも含めまして、やはりこの天守閣の建設についてはまだ時期尚早だろう。もっと考えるべき問題点がたくさんあるということ指摘してきただけであります。そして現実の建設の請負契約という段階になりますと、歴史的な資料としての意味があるんだ、こういうよりなお話でもあるわけで、少々その点についてお聞きしたいといふふうに思ひわけてあります。

従来、私がこれまでに質問してきましたが、天守閣は一体何の目的のための施設であつたのか、こういうことについて新しく現在建設が設計されているその中では、どのような考えのもとにそれがつくられているのか。

従来の教育長さんのお話では戦争をする場所だと、軍事施設だ、こういうお話がかつてありましたけれども、具体的にこの話を聞いてみますと、この天守閣については石垣もない、そして石垣がなければ当時の当然の軍事的な施設という意味合いからすれば、石落したとか、あるいは鉄砲はさまだとかそういうものがあつてしかるべきだろうと思ひますけれども、こうした点については

そういう施設は設計の中で考えられているのかどうか。

そのことと関連いたしました、この天守閣というのはあったとすればそういう軍事施設というより注意づけや、意味合いというのが天正期のモデルの城としては十分な意味があったのかどうか、この点についてどのような考えで設計がされているのかお聞かせ願いたい。こういうことが第一点。

それから、それとの関係も非常に重要な問題だろうと思うんですけども、天正期の初期の段階では、そこに住居としての機能も持っていたということが安土城なんかでは非常に歴史的な資料も出てきているんですけども、そういう使われ方がなかったのかどうかという点ですね。義康御殿、この義康御殿跡ということと発掘もされていますので、それとの関連ではどういふような見解をお持ちであるか。

さらに、この天正期を過ぎて江戸期に入りますと、鹿島堀が掘られるというところで、この鹿島堀というのは相当大きな当時では土木工事であったというふうに推察するわけですけれども、土木工事としての鹿島堀を掘ったということ、この城との関係、どういふことかといえますと、当然当時の常識的な判断では、城というのは、城づくりの根本はそういう堀を掘ったり、がけを築いたりというより土木工事これが城としての、とりてとしての機能をする上での基本的なものだ。むしろその上に天守閣をつくるとか、つくらないとかいうことは城づくり全体としては価値の少ないことだというふうに私は理解しておるわけですけれども、とすれば、鹿島堀というより非常に重要なものが後からつくられたということについては、どのような御見解をお持ちであるかと

いうことですね。

次に、工事の契約問題についてでありますけれども、この工事契約にあたっては中央の業者、大手の業者を指名業者に選んだ。こういうことでありますけれども、私は地元業者の能力を伸ばすと、そしてまたその後のアフターサービスの問題だとか、あるいは地域の経済の発展というよりような点から考えた場合に、やはり地元業者の育成ということとは当然配慮されなければならぬということだと思っております。

そういう点で、今回の入札に際しては指名業者から地元の業者が一人も入っていないということでは大変私は問題を感じるわけで、しかしながらかなり専門的な技術的な内容があるから、こういうより御説明があったと思うんですけども、お聞きしたいことは、それでは地元業者の中にこうした天守閣の建設についての指名業者になることについての意欲はなかったのかどうかという点、その点については行政側としてはどのような把握をされているのか、お聞かせを願いたいと思うんです。

それから、三回の入札を行ったそうなんですけれども、いずれも落札がなくて随意契約になった。こういうことでありますけれども三回のそれぞれの最低の札を入れた業者名をお聞かせ願いたい。こういうことです。

○教育長（安田豊作君） 天守閣というのはどういうものかというよりなことについての御質問、三つにわたってお話がありました。が、天守閣についてはいろいろの説があるようですし、時代による変転もあるようです。しかし先ほど申し上げましたように、戦争のときそこに最後にたてこもって、最後はそこで自刃

するといふような場面がよく見られるわけです。そうしたことで天守閣というのは、ある意味では城の代表的な建物であつて、最後にそこにたてこもるといふように、詰の丸といふような言葉で言われております。一の丸、二の丸といふように、館山城の場合も義康御殿あるいは忠義御殿の跡がいまも言われておりますので、そこに住んでおつて、頂上の天守閣のところはいわゆる詰の丸、最後のよりどころとなる。こういうことになると思いますが、しかし天正期といふですか、安土城は住居があつたじゃないか、こういうことですが、それは戦争中の住居でございます。安土城は特殊なもので、信長がここに住んだこともあるような記録もありますから、安土城については特殊な事情があるようですが、ほかの天守閣についてはそこを常時住居としたという例はあまりないようです。戦争中の住居としたんだ、こういうふうに考えてみると、こう思います。

さらに、鹿島堀が後でできたんだがどうなんだ。こういうことでございますが、こういうことについて調査会、その他でいろいろ考証しておりますが、館山城については当初、いわゆる天正十六年ですかに築いた頃は、山を利用した、いわゆる山の急峻なかけを利用した山城としてつくられたというのが妥当な考え方じゃないか、こういうことでございます。それが鹿島堀が掘られた時代と城がずっと広がるわけでございまして、その城がいわゆる平山城に変わってきているといふような考え方もすることが館山城の解釈として妥当じゃないだらうか。地形やなんかを測量してみますと、そういう地形で読み取れるわけでございます。

そういうことで、最後は藤岡先生の考証に基づいて、関

東以北の城は石垣に適する石材が少ないために、石垣をあまり用いないで急峻な山を利用してゐると。それから山城であつたために天守閣は石垣を積まないで、土の段を利用して建てられている。それから一、二階は同じ大きさに二重やぐらに入母屋の大屋根をあてている。その上に小展望台といふのがついている。それから最上階には唐破風の飾り金具を配したといふようなことで、藤岡先生の考証をもとに今度入札した博物館分館は建てていく。こういう考え方でございます。

○総務部長(石田雄一君) 質問の二点でございますけれども、まず地元業者の育成といふような観点からの御質問でございますが、むろん官公需の地元優先発注といふことで市当局としても十分配慮しているわけでございますけれども、参考までに五十五年度の一般会計分の工事発注の状況を申し上げますと、土木工事につきましては九四％を地元発注、件数にいたしまして九四％。それから建築工事につきましては八六％を地元発注しているという状況でございます。

ただ、どうしても工事の請負の中身を見ましたときに、特殊工事あるいは高度の技術を要するといったようなものにつきましては、大手業者にお願ひするといふような事情にございまして、当博物館分館の事業内容を見ますと、やはり天守閣といふような構造部分がございまして、破風等の曲線これがなかなか出せないといふようなこともございます。それからいま一つは、原寸型板を使うといふようなことにおいて、非常に大きな作業場等も必要となってくるわけでございます。こうしたことから大手の業者を選定したわけでございます。

次に、入札三回におきましての最低業者の名前でございますけれども、三回いずれとも株式会社青木建設でございました。

○一番（神田守隆君） 天守閣の意味、意義ということで、最後にはたてこもる、戦争時においてたこもる住居、そういう意味での住居、限られた意味での住居。それとかなり軍事的の性格の非常に強い城であったというふうな私は認識を持つてすけれども、そうすると、もう一点お聞かせ願いたいことは、たとえば館山城より少し遅れて文禄年間ですけれども、松本城がつくられた。この松本城は内部に井戸だとか、便所だとか、それから台所とか文字どおり備わっていて、最後に城へたてこもって徹底抗戦するんだというふうな立場でおそらく城の設計がされたというふうに言われているわけですね。

また、熊本城などでは石落しを設けたり、あそこはがけが厳しく石垣も組んでそういうことをしたと伝えられておりますけれども、そういう観点からすれば、このお城、館山城にたてこもる施設としてそうしたものが考慮されているかどうか。設計の段階ではどうもそういうふうには、建物としてたてあるというふうなことで私は認識を持ちますので、そういうような点がどのように配慮されているのかということですね。これは歴史上のモデルとして展示するというのですから、おろそかにできることではなからうかと思えますので、御見解をお聞かせください。

それから、工事契約の問題ですけれども、地元業者の私は意欲の点でどうだったのかということを行政の側でぜひお聞かせ願いたい。こういう質問だったんですけれども、確かにそれぞれむづかしい、かなり建築としては一般建築と違ったものもあるという

ことは私も十分考えられるところだし、私もそうだと思います。それにしても、そうした非常に高度な技術を要する建物に対して、地元業者の中に積極的な意欲があるということであればこれは指名業者にして、競争入札で負けて、公正な入札で負けてだめだというならこれは当然しやうがないでしやう。しかし入札にも参加をさせないというのはどうか。やはりそうした業者の意欲を育てる上でも、こういうものを地元でぜひやりたいんだというより意欲を育てる上でも、指名業者からはずしてしまおうというのは私はどうしても納得がいかないわけで、この点で地元業者にそうした意欲があったのかどうかということについて、行政の側がそのへんの業者との話やなんかがこの経過にもあったのか、なかったのか。その点をお聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 天守閣の中に最後に籠城して住居に備えるための施設、その他備えるんだということでございますが、そういうものについてはできるだけ時代考証に基づいた形でなくて、文書で正しい歴史的な経過というふうなものは、絵とか、文書で正しく子供とか、みんなに知らせることを考えております。それが展示の考え方です。したがって井戸のようなものはいまのところ掘る計画はありません。

それからもう一つ、最後のよりどころと申しましたけれども、戦争の最後のよりどころ、自刃するところではありますけれども、やはりその頃になりますと、城としての威容を誇るとか、城の代表的な建物であったという、そういう性格を帯びてきております。鉄砲が使われますと、もう用をこななくなりますので、そういう傾向がありますので、必ずしも戦争の施設だけを備えるということ

ではないように思いますので、そのへんは文章、その他で十分に理解を求めるように考えております。

○総務部長（石田雄一君） 地元業者の意欲の関係でございますけれども、特にこの点につきましては、地元業者にその意欲があるかどうかという調査というか、意見聴取はしてございません。ただ、天守閣型の博物館分館でございます特殊建築、こういう観点から過去に天守閣等の施工実績を持った業者の面で条件を大きくしほったわけでございます。

○一番（神田守隆君） いまの地元業者の意欲という点で、意見聴取ということもしていないということですから、それは答弁は答弁としてわかりましたけれども、その点はちょっと納得できません。

それから、天守閣の問題ですけれども、私はこの天守閣の問題で、いまの御説明の中にもありましたように、威容を誇るといいますか、そうした權威の象徴としての城としての性格とか、同時に軍事的な施設としての性格とか、それぞれ天正期から江戸に入る時期というのは非常にこの城の性格がそれぞれつくられたそのときの政治情勢、軍事情勢こうしたもので、非常にデリケートなぐらい変わっている時期だというふうに私は認識を持っていますわけなんですけれども、それがいまの教育長さんの答弁の中にも、はからずもそうした性格もというよりな言い方があっただろうと思うんですけれども、それだけにこの時期というのは非常に歴史的にもまだ研究の余地が相当残された分野ではなからうかというふうに思ひわけなんですけれども、そういう点では非常に流動的な性格を持っていた。城を一つつくるにしても、どういうような

城を、どういう目的でつくるかということが大変流動的な時期だったのではないかと。江戸期に入ってしまったえばある程度安定するといふか時期でもあったとも思ひわけで、それだけに大変に考証が一番むずかしい時期ではなからうかと思ひますけれども、この点についての御意見をひとつお聞かせ願いたいということですが、それともう一点は、鉄砲はさまこれはあの設計の中に入っているのかどうか。そのへん少し私聞き忘れましたのでお聞かせ願います。

○教育長（安田豊作君） さっき申し上げました藤岡先生の考証に基づいて、これが今度建てる城の一つの考え方で、流動しております。したがって、この流動の姿については他の城のモデルを写真、その他で中に展示して、そうして見る人に正しい理解をしてもらう。こういうような考え方をいまはしております。

それから、鉄砲はさまはなかったと思います。

○一番（神田守隆君） 終わります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。

○一番（石井輝久君） 先ほどの二〇番議員の質問に関連いたしましてちょっとお伺いいたします。

この天守閣型の四階建ての建物は、設計を民間業者に委託されて、市は設計に關してはいろんな御意見はあったでございますけれども、設計は民間業者でございます。

先ほどの御答弁によりますと、工程の監理も民間の業者ということでございます。これは簡単ですけれども、市は工程の監理にたずさわらない、タッチしないで、もっぱら民間の業者のよう理解してよろしくございますか。確認でございます。先ほ

どの御答弁の。

○総務部長（石田雄一君） 一九番議員の御質問にお答え申し上げます。

工程表が業者の方から出てまいりますので、その工程表によつての事業の進捗のチェックというものは当然市においてしていくということでございますので、すべてを監理業者の方にまかせるということではございません。

○一九番（石井輝久君） 先ほど、ですから確認をしたわけですが、なんですが、なんと民間業者に設計、監理も含めて委託をされたんで、この工程の監理は民間の業者にまかせるというように御答弁あったように承ったので、いま確認をしたわけでございますが、ただいまの御答弁によりますと、業者から工程表が出されるからそれを市が見ていく。市が見ていくと言っても、これは建築工事でございますから、非常に複雑多岐にわたると思うんです。それを市と言つたって、漠然と市が工程表を見ると言つたって総務部が見るということですか。それとも教育委員会が見るということですか、あるいは経済部が見るということですか。

これはかつて民間業者に委託をした、これはすぐ目の前の三中也そうでございます。三中也民間業者に委託をしたけれども、これは工程の監理は厳密に市当局でやっております。厳密ということとは教育委員会ではなく、ちゃんと特定者が監理にあたつたように記憶しております。

だから、二〇番議員そういう意味を含めての御発言だつたと思つて、非常に漠然としている。工程監理の責任の所在がないということなんですよ。市当局と言つたって五百人も市の職員が

いる。一体どなたが責任を持って工程の監理をされるのか。民間業者に任せっ放しというなら、そういう姿勢でもよろしゅうございましょう。ちょっと漠然としているのではつきりとお答えをいただきたい。

○総務部長（石田雄一君） お答え申し上げます。

工事の工程につきましては契約書の中に条項があるわけでございますが、十分発注者でございます市と相手方との協議を踏まえていくわけでございますが、実際工事に入つてまいりますと、当工事の場合では所管でございます教育委員会ここに一級建築士がおりますので、この建築士を通じての現場監督等との職務を遂行させていきたいということでございます。

○一九番（石井輝久君） わかりました。

もつぱら、この工事に關しては教育委員会の何課になるんですか、一級建築士がおられるのは、それを承つて最後ですら質問を終わりますが、要するにこの工事の工程の監理、それは技術面ももちろん含まれますけれども、市当局、市当局ということは私も市長の事務部局、教育委員会は市長の事務部局ではないから、先ほどの御答弁とちよつと食い違つてくる。先ほどは市が工程の監理をする。今度は教育委員会がする。こういうことになりすよ。

いやもう、これ議会の応答でございますから、正確にお答えをいただかないと将来誤解のもとにもなるし、きわめて正確に質疑応答してもらつて、先ほどの御答弁ですと市が工程の監理をする。一番最初は民間の業者に監理まで委託するから市は関係ない。次は市当局が監理する。今度は教育委員会に移っていく。答弁が右

往左往でなしに、二転、三転しているように私は思う。

ですから、そうすると、確認ですけれども、教育委員会が監理する。教育委員会の何課に、うっかりしまして一級建築士が教育委員会の何課におられるかわかりませんが、最後ですから、確認の意味でお答え願います。

○教育長（安田豊作君） 一級建築士は庶務施設課。この担当は博物館準備室が担当します。両方協調してあたる。こういうこととございます。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

○一番（神田守隆君） 私は、この天守閣型博物館の建築請負契約の議案ですが、承認に反対ということで反対意見を述べます。

城山に天守閣があったか、なかったかということ自身まだ解

明されていないわけでありまして。城山の天守閣はまだ歴史の綱彰を受けないものであり、そこからは正しい歴史認識も郷土への愛着も生まれないというふうに考えます。

いま、天正期のお城に関する学術的な研究も、安土城の構造がよくわかるようになったり、この研究の成果も大いに今後に期待できるところであります。

館山城に関しても義康御殿跡の調査や、あるいは鹿島堀の調査など新たな歴史資料も次々にそろってきているのが現状かと思ひます。館山城に関する研究は大いに今後に期待されるところが多いというふうに思ひます。

それだけに、いま性急に現在の持ち合わせの知識でたぶんこうであつただろうという、こういう推測の上につくつてしまつていゝのは大変大きな問題を今後に残すというふうに言わねばなりません。博物館はまず本館から取り組むべきであつたというふうに考え、急いで天守閣型の分館をつくる理由はないと考えます。

また、この工事は、当然地元業者を考えて、業者の選定については地元業者についても当然配慮すべきであつたというふうに考えます。競争入札から排除するというよりなやり方は承服できません。大手建設業者に押えられ、地元業者はその下請に甘んじるのが精いっぱい、これではいつまでも地元業者の発展はないと考えます。

こうした点も含めまして、今回のこの工事請負契約の承認に反対ということとあります。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。

よって、本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第五、発議案第二号専決処分事項の指定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（議案朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第二号専決処分事項の指定について提案理由を御説明申し上げます。

地方自治法第八十条第一項に、議会の権限に属する輕易な事項につき、議会の指定により長の専決処分に委ねることができ旨規定されております。

和解及び損害賠償の額の決定については、地方自治法第九十六

条第一項第十一号及び第十二号の規定により議会の議決事件とされておりますが、特に現下の交通事故の発生状況等にかんがみまして、一定金額以下の損害賠償の額の決定及びこれに伴う和解について地方自治法第八十条第一項により措置することが問題の早期解決を促し、適切な行政執行に資するものと考え、お手もとに配付のとおり七名の賛成者を得て本案を提出いたしました次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委 員 会 付 託 の 省 略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。
よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第六、発議案第三号館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（議案朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第三号館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について提案理由を御説明申し上げます。本市議会の常任委員会の所管事項につきましては、従前の部課設置条例に基づいて規定されておりますが、市の機構改革により部課設置条例が廃止され、行政組織条例が制定されておりますので、この際、常任委員会の所管事項を行政組織条例に合わせて改正いたしたく、お手もとに配付のとおり七名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第であります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。
御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。
よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに付論省略採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

よって、本案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第七、請願第二号館山駅東西歩道橋早期建設に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（請願書朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（二七番議員石井 正君登壇）

○二七番（石井 正君） ただいま議題となりました請願第二号館山駅東西歩道橋の早期建設に関する請願書につきまして紹介議員を代表して請願趣旨を御説明申し上げます。

要旨につきましては、ただいま配付の趣意書に申し上げたとおりであります。

さて、館山市は観光都市として広く宣伝されていますが、表玄関である駅前広場の立地は、海に背を向けた市街構成になっており、加えて駅を中心に東西に分断され、その両機能は完全に妨げられ、海の館山のイメージは全く失われております。

このような状態のままでは放置しておくことは、今後館山市の発展の影響はもちろん、社会的にも大きな問題が起ると考えられます。すみやかにこの善後策を講ずる必要があると存じます。

ただいま、館山市が調査中の駅前周辺再開発計画の上からも、また市民が熱望する館山駅東西歩道橋の早期実現は必要なものと考えます。

以上、請願趣旨について御説明申し上げましたが、満場の御賛同により採択いただきますようお願い申し上げます。以上。

○議長（林 豊君） 以上で、説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） 御発言を願います。

○一番（神田守隆君） 紹介議員の方々に若干お伺いしたいことが

ありますけれども、私は東西歩道橋の早期建設のこの請願書の趣旨はよくわかりましたけれども、現実的にどの程度のを、橋上駅、横断橋と言ってる場合にどの程度のものをここでは考えられているのか、そういうことについて。それから具体的にどの部分に、そういう点についてはこの中で明らかになっていないですねけれども、明らかになっていないままで請願なら、請願で結構です。そのへんまで話が具体的にあればそこらの説明が少しほしいということであります。

○二七番（石井 正君） ただいま、まだそういう細かいことまで承知しておりません。

○議長（林 豊君） 他に御発言はございませんか。——御発言なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本請願書については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） よって、これより採決いたします。

本請願書を採択と決すことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

よって、本請願書は採択すべきものと決しました。

閉

会 午前十一時三十一分閉会

○議長（林 豊君） 以上で、本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第二回市議会定例会を閉会いたします。

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議員 林

豊

館山市議会議員 福

勤

館山市議会議員 安

順

澤

徳

順

順

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十七号ないし議案第四十二号

一、請願第一号及び請願第二号

一、日程追加・発議案第一号

一、発議案第二号及び発議案第三号

